

国庫補助事業
令和4年度 地域スポーツ推進体制基盤強化事業
群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議
活動報告書



【目 次】

- 1 はじめに
- 2 あいさつ
- 3 令和3年度の提言に対する令和4年度実績の振り返り
- 4 計画したアクションプランに対する令和4年度実績評価
- 5 課題のスケジュール・アクションプラン実行スケジュール
- 6 スポーツによる地域課題の解決に向けた取組の推進
 - I 地域スポーツ推進団体連絡会議
 1. 委員名簿
 2. 地域スポーツ推進団体連絡会議議事要旨
 - ① 第1回連絡会議
 - ② 第2回連絡会議
 - ③ 第3回連絡会議
 - ④ 第4回連絡会議
 - II 各種研修会
 - <西毛地区ブロック研修会>
 - ① 学校部活動の休日地域部活動移行に関する研修会
 - ② 行政支援と学校部活動指導者育成に関する研修会
 - ③ モルック実技研修会
 - <総合型地域スポーツクラブ実技研修会 ACP 講義・実技研修会>
 - <フォローアップセミナー>
 - III 先進地視察
 - <県内視察>
 1. みなかみ町
 - <県外視察>
 2. 岐阜県羽島市
 3. 滋賀県彦根市
- 7 登録審査委員会活動報告

はじめに

令和4年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業 群馬県スポーツ協会事業報告書の巻頭にあたり一言申し上げます。

本事業は昨年度に引き続き、総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツ活動の活性化に向けて、安心安全な運動・スポーツを地域住民へ提供するために、幅広いニーズに応えられる地域のスポーツ環境の基盤強化に必要な地域課題の解決に向けた取組を促進するために国庫補助事業として、(公財)群馬県スポーツ協会が事業実施団体として行いました。

昨年度に引き続き、群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の助力を拝しながら、「年4回の地域スポーツ推進団体連絡会議(以下『連絡会議』とする。)の開催」、「スポーツによる地域課題の解決に向けた取組の促進」を大きな二本柱として、実施計画の作成、諸契約の締結、事業後の経理処理等を経て本報告書の作成に至っています。

連絡会議の開催に向けてまず着手したのが、連絡会議に先立って実施した「打合わせ会議」において本事業のグランドプラン、いわば年間事業計画の確認と、連絡会議の構成員(12名)の選定及び委嘱、連絡会議の地域課題の確認及び目的・内容の洗い出しでした。

具体的な活動内容の検討は、①各連絡会議における目的と協議内容の確認、②地域課題解決に向けた取組としての、「学校部活動との連携」「子どもの体力向上」「スポーツにおける地域活性化の推進」「県内4ブロック会議の実施」「登録・認証制度に係る意見交換会、制度周知」にまとめ、いよいよ活動がスタートしました。

いざ活動を行うにあたり、痛切に実感したのは、地域スポーツクラブの活性化には当該クラブと連絡協議会、市町村部局、同教育委員会、県当局、同教育委員会、地域のスポーツ協会、そして県スポーツ協会の密接な連携と信頼関係が不可欠であることです。

また、時代の潮流である「運動部活動の地域移行への対応」や新しい制度による「登録・認証制度への対応」などが、当面、本県の課題として浮き彫りになってきたことでした。

具体的、詳細な内容については、この後の記載にて報告いたします。

結びに、この報告書が、群馬県における地域スポーツの課題の解決や、「登録・認証制度」「中間支援組織」の本格実施に向け、県内各スポーツクラブの参考資料に、また、今や喫緊の課題となっている「運動部活動の地域移行」に向けた取組に向けて学校や関係団体における参考資料となることができ、さらには、広く群馬県民のために「明るく豊かなスポーツ健康立県」の実現の一助となれたら幸甚に存じます。なお、誠に申し訳ありませんが、報告書中の各事業等における講師・対応してくださった方について表記から敬称を省略させていただいたことを申し添えます。

公益財団法人群馬県スポーツ協会
理事長 松本 博崇

あ い さ つ

令和4年度「地域スポーツ推進体制基盤強化事業」としての国庫補助金を前年度に引き続き（公財）日本スポーツ協会（以下 JSPO という）から（公財）群馬県スポーツ協会（以下、群馬県スポーツ協会という）へ委託され、令和4年4月から令和5年2月まで本国庫補助金の趣旨に沿って活動を行いました。

前年度の国庫補助金で組織した群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議（以下、地域スポーツ会議という）の委員として、新たに県教育委員会健康体育課長並びに学識経験者として上武大学講師を加えて組織しました。

また、地域スポーツ会議として、今年度から総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度に基づいた登録審査委員会を初めて開催し中間支援組織として最も重要な業務を行いました。

群馬県は、令和3年度から令和7年度の5カ年間で対象とした群馬県スポーツ推進計画によって、4つの政策目標を掲げています。その中の「スポーツによる健康増進・生きがいつくり」・「スポーツによる共生社会の推進」については、昨年度取りまとめた提言によって実現可能となると考え、結果として「スポーツによる活力ある地域創生」へと更に繋がることを願います。

この提言を着実に実施できるよう、今後、群馬県と県スポーツ協会において強固な協働関係を基にして順次必要な予算措置を行い、地域スポーツの支援体制の強化を図らねばなりません。

令和5年度から段階的に地域移行する学校部活動の再編と、令和6年度から本格運用される総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度は、地域における新たなスポーツ環境構築の好機になると考えます。地域において誰もがスポーツによって、自己実現を図り、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる社会、その構成要素としての新たなスポーツ環境構築に向けて、この提言が着実に遂行できるよう努めて参る所存です。

群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議
座 長 平林 知巳

3 令和3年度の提言に対する令和4年度実績の振り返り

(令和4年度の協議の過程で、令和3年度の提言等の一部見直しを行った)

令和3年度に定めた提言を実行するために令和4年度も前年度に引き続き総合型クラブ・スポーツ少年団・公認スポーツ指導員・スポーツ推進委員・県教育委員会健康体育課の各団体・組織の会議体として取組むことはできたが、研修会の出席者については、総合型クラブ関係者が多くなってしまったため、広報等の見直しが必要である。しかしながら、多くの地元議員の参加があり、興味を持っていただくことができた。

現時点の大きな課題として、行政機関並びに県スポーツ協会として多くの提言を達成するために継続した財政確保が挙げられる。

(令和3年度に定めた提言)

1. 人材育成プログラム開発

令和5年度から順次移行する学校部活動の休日の運動部活動の地域移行を円滑に進めるために、学校と地域を繋ぐ「コーディネーター」と「アシスタントマネジャー」を養成する研修会を開催する。また、地域スポーツクラブの財源確保に必要な人材育成並びに部活動指導者に対する共通プログラムを用いた育成を積極的に行う。

2. 子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発

子どもの体力向上のために、ACPの普及啓発並びにタブレット等を活用して教育DXにふさわしいプログラムを県内大学と協働・連携して開発する。

3. インクルージョン社会を目指した活動普及

障害者スポーツ参加を高めるために、健常者と障害者の垣根を超えたイベントを各団体が協力して企画運営する。

4. スポーツカによって地域活性化へ

スポーツによって地域活性化ができる地域スポーツクラブを育成し、地域の魅力を発信できるスポーツコミッションが組織できるように支援する。

5. 各団体間の円滑な情報共有化を促進する

地域スポーツ推進連絡会議は、今後も継続して開催し、各団体間を繋ぐ会議体として活動が継続できるようにする。また、オンライン会議システムを県スポーツ協会として常時使用できるようにシステムを構築する。

4 計画したアクションプランに対する令和4年度実績の評価

令和4年度以降のアクションプラン項目	評価
1. 先進的な人材育成プログラム開発	
① 令和4年度から人材養成に必要な財源を確保する	C
2. 子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発	
① ACPの全県下への普及啓発活動	B
② 大学等と協働・連携して、プログラム開発、データ収集と分析	C
③ 高等学校等と連携して、地域活動に興味がある生徒たちの活動の場としてプログラム構築に参画してもらう	D
3. インクルージョン社会を目指した活動普及	
① 障害者スポーツの普及啓発活動	A
② 県スポーツ協会と県障害者スポーツ協会共同イベントの開催	A
4. スポーツカによって地域活性化へ	
① 各自治体は、総合型クラブが組織されていない地域に対して、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会を中心に地域スポーツクラブ育成を促進するための予算措置を行う。	C
② 温泉、山歩き、スキー・スケート等観光・レジャー資源に恵まれている特性を活かして各地域がスポーツカで地域の魅力を発信する	B
5. 各団体間の円滑な情報共有化を促進する	
① 年間4～6回程度、定期的に各団体間で情報共有するために会議を開催する。	A
② 県スポーツ協会は、円滑に情報交換できるようにオンラインシステムを構築する。また、使用方法についても研修会を併せて開催する	C

【評価記号について】

- A・・・計画どおりに実施できた
- B・・・一部計画どおりに実施できた
- C・・・実施に向けて取り組んでいる
- D・・・全く または ほぼ実施できていない

【アクションプランに対する年間実績自己評価】

上記の評価表に示したように、いくつかの項目は高い評価となったが、重点課題となる人材養成については実施できたことが少なく、低くならざるを得なかった。令和5年度に向けて人材養成（育成）とクラブの質の向上を重点課題として計画する。そのために事務局体制の強化をお願いし事務業務が停滞しない事務局体制の充実が必要である。

5 課題のスケジュール・アクションプラン実行スケジュール

【課題に対応したスケジュール】

項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8
(現行)県スポーツ推進計画	→					
総合型クラブ登録・認証制度	→					
スポーツ少年団改革プラン	→					
休日の部活動地域移行	→					

【アクションプラン実行スケジュール】★は実施 ☆は未実施または未達成
◎は重点項目

項目	R4	R5	R6	R7	R8
1. 先進的な人材育成プログラム開発					
① 人材養成(育成)に必要な財源を確保する	☆	◎	☆	☆	☆
2. 子どもの体力向上等のプログラム開発と普及啓発					
① ACPの全県下への普及啓発活動	★	☆	☆	☆	☆
② 大学と協働・連携して、プログラム開発、データ収集と分析を行う	☆	☆	☆	☆	☆
③ 高等学校等と連携して、地域活動に興味がある生徒たちの活動の場としてプログラム構築に参画してもらう	☆	☆	☆	☆	☆
3. インクルージョン社会を目指した活動普及					
① 障害者スポーツの普及啓発活動	★	☆	☆	☆	☆
② 県スポーツ協会と県障害者スポーツ協会共同イベントの開催	★	☆	☆	☆	☆
4. スポーツカによって地域活性化へ					
① 各自治体は、総合型クラブが組織されていない地域に対して、スポーツ少年団、スポーツ推進員を中心に地域スポーツクラブ育成を促進するための予算措置を行う。	☆	◎	☆	☆	☆
② 温泉、山歩き、スキー・スケート等観光・レジャー資源に恵まれている特性を活かして、各地域がスポーツカで地域の魅力を発信する	★	☆	☆	☆	☆
5. 各団体間の円滑な情報共有化を促進する					
① 年間4～6回程度、定期的に各団体間で情報共有するために会議を開催する	★	☆	☆	☆	☆
② 県スポーツ協会は、円滑に情報交換できるようにオンラインシステムを構築する。また、使用方法についても研修会を併せて開催する	☆	☆	☆	☆	☆

◎重点項目

アシスタントマネジャー養成講習会の開催、クラブ巡回を円滑遂行できることとする。各地域で開催する研修会等へ、行政担当者、スポーツ少年団関係者、スポーツ推進委員等の多様な組織へ働きかけて参加を積極的に促す

6 スポーツによる地域課題の解決に向けた取組の推進

I 地域スポーツ推進団体連絡会議

【地域スポーツ推進団体連絡会議メンバー名簿】

- 1 高橋 陽一（群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課長）
- 2 橋 憲市（群馬県教育委員会健康体育課長）
- 3 菅谷 美沙都（学識経験者上武大学ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科講師）
- 4 蜂須 聖司（群馬県スポーツ推進委員協議会会長）
- 5 中澤 則行（群馬県公認スポーツ指導者協議会副会長）
- 6 狩野 誠（群馬県スポーツ少年団指導者協議会運営委員長）
- 7 小野里 順子（群馬県スポーツ協会理事）
- 8 平林 知巳（座長・群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長）
- 9 小出 利一（群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会副会長）
- 10 石田 隆則（群馬県障害者スポーツ協会事務局長）
- 11 小林 秀光（学識経験者クラブアドバイザー）
- 12 高田 勉（群馬県スポーツ協会事務局長）

令和4年度第1回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議 議事要旨
(国庫補助事業 令和4年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業)

1.開催日時：令和4年9月17日(土) 12時10分から13時15分

2.開催場所：高崎市立新町中学校体育館

3.出席委員等

高橋 陽一・橋 憲市・菅谷 美沙都・蜂須 聖司・小野里 順子・平林 知巳・
小出 利一・石田 隆則・小林 秀光

欠席委員

中澤 則行・狩野 誠・高田 勉

【オブザーバー】

藤堂 綾子（岐阜県スポーツ協会クラブアドバイザー）

渡辺 靖代（スポーツリンク白川クラブマネジャー）

早川 亨（群馬県スポーツ振興課係長）

小山 靖弘（群馬県教育委員会健康体育課学校体育係指導主事）

高橋 史倫（群馬県スポーツ協会事務局）

4.議 事

進行役：平林座長

本日は、昨年度、基盤事業強化連絡会議メンバーの先進県現地視察研修でお世話になったスポーツリンク白川のクラブマネジャー渡辺さんと岐阜県クラブアドバイザーの藤堂さんをお迎えして、講演をいただきました。

今後、群馬県で展開していく内容を既に実行されている岐阜県の現状と実際に現場で生徒の活動を受け入れられている状況を伺い大変参考になりました。

本日初めて、講演内容を聞かれた連絡会議メンバーの方もおられましたが、感想を含めてご意見をいただきたいと思います。また、群馬県として取り組んでいった方が良いと思われる事業についてもご意見いただければと思います。

◎各委員からの意見

・白川町の事例は、とても参考になりました。学校・生徒・保護者・地域・行政とそれぞれの立場でどのようなことをしたらできるのかと考えていく必要性を改めて感じました。

・県内の市町村や学校に、今日お聞きした事例を紹介していきたいと思います。

・岐阜県で取り組んだ、学校部活動指導者研修会については、群馬県としての今後の参考になりました。教育委員会・知事部局・スポーツ協会とも情報供給しながら群馬県としての指導者育成のための方策を考えていきたいと思います。

・切れ目のないサポートの仕組みづくりがよく理解できた。

・岐阜県の行政の地域スポーツ移行への向かい方が素晴らしく、育成する大切さを実感

した。

- ・クラブにおける「規約」のアップデートを毎年行なっていることが素晴らしい。
- ・群馬県における地域部活動指導員の増員の必要性を感じる。
- ・岐阜県における指導者委嘱のシステムは群馬県内の学校・保護者に紹介すべきである。
- ・クラブの活動を安定させるために、クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの養成を定期的に行っていることは素晴らしい。
- ・アシスタントマネジャー資格取得に関して、SCの関係者だけでなく、競技団体や外部指導者にも幅広く声掛けをしていることは、群馬県としても参考になる。
- ・スポーツリンク白川の運営方法は、部活動の統廃合を含み、生徒ファーストであり、保護者のかかわりもうまくいっていると思う。
- ・岐阜県における人材育成については、持続可能なクラブ運営を行う上で最重要課題と考えており、群馬県としても考えるべき問題としていきたい。
- ・白川の場合ですら、保護者の中から指導者を見つけるのに苦労しているとの事、群馬県に置き換えると、各学校で指導者の発掘は急務となる。
- ・群馬県においても外部の運動部活動指導者の研修会を行い指導の質を上げるとともに安心して活動を指導してもらえよう人材育成に力を注ぐべきである。
- ・各学校で様々な条件が異なる中、生徒の活動が滞りなく行われるのが理想で、各校ごとに、どのようにすればよいかをマニュアル化して指導していくべきである。
- ・群馬県として人材育成が不十分な状況を数値で見せられて改めて痛感した。
- ・公認クラブマネジャー等の資格取得のために資格取得講習費、集合研修場所までの交通費までも全額補助している姿勢は、群馬県として大いに見習うべきことである。
- ・部活動の地域移行を見据えて、アシスタントマネジャー養成講習会の開催案内を今年度から競技団体、スポーツ少年団関係者にも発出して参加者を大幅に増加させている工夫も参考になった。

まとめとして、各連絡会議メンバーも感じられたことではあるが、群馬県において部活動指導者育成研修会の企画、参加者の募集（中学校の先生方を含む）を行い、指導者としての一定の指導力を確保し、生徒の活動がより良いものになるよう研修を深めてもらいたい。これには、群馬県・群馬県教育委員会・各市町村教育委員会・県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会・群馬県スポーツ協会等が、一丸となって取り組んでいく課題と考える。

令和4年度 第2回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議 議事要旨
(国庫補助事業 令和4年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業)

1.開催日時：令和4年12月11日(日) 17時10分から18時10分

2.開催場所：高崎市立新町小学校地域開放教室

3.出席委員等

高橋 陽一・橋 憲市・菅谷 美沙都・蜂須 聖司・小野里 順子・平林 知巳・
小出 利一・石田 隆則・小林 秀光・中澤 則行・狩野 誠・高田 勉

【オブザーバー】

吉田 繁敬(日本スポーツ協会 ACP 普及・啓発プロジェクト班員)

早川 亨 (群馬県スポーツ振興課係長)

小山 靖弘(群馬県教育委員会健康体育課学校体育係指導主事)

高橋 史倫(群馬県スポーツ協会事務局)

4.(1) あいさつ：公益財団法人群馬県スポーツ協会 高田 勉 事務局長

・吉田講師へACPの実技研修会への御礼。

・これからの会議で是非全国の様子をお話しいただきたい。また、部活動の地域移行について情報提供を頂きたい。

(2) あいさつ：群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 平林 知巳 会長
(座長)

連絡会議メンバーのほとんどの方が、午後の実技研修会から参加していただき、また、吉田講師には引き続き会議まで出席いただきありがとうございます。

子どもたちの体力低下が著しく、今後の大きな問題であるので、連絡協議会に加入しているクラブの活性化と併せて全国の事例等を紹介していただければ幸いです。

5.議 事：進行：座長 平林 知巳

1：人材育成プログラムの開発について

2：クラブ運営における具体的な課題について

【吉田講師】

本日は熱心に講演・実技に参加いただき、お疲れさまでした。昨日は、三重県の鈴鹿で研修会を行ってきました。全国的に「ACP」の導入に興味を持っていただいております、全国を飛び回っております。

いくつか紹介しますと、岐阜県では、5校において体育授業への導入が行われております。今後、岐阜市内の小中学校全校での導入が予定されています。

島根県においては、教育委員会・スポーツ協会がタイアップして、全市町村において研修会が実施され、全てに指導をして回りました。加えて、幼稚園を含めて導入が考えられています。

関東では山梨県の笛吹市において、教員研修に取り入れられており、東京の町田市では、市民であれば市の負担でジュニアスポーツ指導員の資格が取れて、部

活動指導者として今後活躍してもらおう準備をしています。スポーツ少年団を中心に「ACP」を普及してきましたが、指導者が内容をセレクトすればすべての年齢層に利用でき、地域に根差したものになりうるものです。新潟県の三条市では、総合型地域スポーツクラブにおいて活用し、運動遊び教室が展開されています。

【ACPの利用について各委員からの意見】

・石田委員

手遊び等は子ども対象だけでなく高齢者にも効果的ですが、障がい者にも十分利用できる内容、動きになると感じた。

・小出委員

新町第一小学校では、体育授業において「ACP」を利用、遊びの中で走り方を見ているが、足首を使って地面をけることができない子どもが多くいるように見える。

・狩野委員

スポーツ少年団としては、資料提供はあるものの「ACP」を導入し実施している単位団もあれば、導入していない単位団もある。

・吉田講師

日本スポーツ協会の補助事業である「ACP都道府県普及促進研修会」は1回10万円くらいの予算で、実施する事ができ、多い県では7コース位補助を受けて行っているところもある。

・小出委員

群馬県内では、スポーツ少年団の指導者をはじめとする有資格者が4名いるので、活用をお願いし、「ACP」と貯筋運動との2本柱で指導していこうと思っている。
(新町中学校では、ウォーミングアップの冒頭で導入している。)

・蜂須委員

P T A連合会や小学校体育研究会へのアピールも良いのではないかと。小学校の低学年までは運動の重要性を親に認識させることが大切で、親子同時に意識改革ができると良い。教員の研修等に組み込んでみてはどうか。

・吉田講師

熊本県では、総合型クラブにおける「ACP」の導入率が高い。保育園・幼稚園などから動きが出て教育委員会やスポーツ協会を巻き込んで動きが出ている。

・高田委員

「ACP」はいろいろとアレンジができるので、県スポーツ協会としても研究の余地があると考えます。

・吉田講師

子どもたちにとっても楽しく、うれしい、やってみたい内容。小中学生に対応しているので、ウォーミングアップから主運動につながる。また、コロナで活動制限されていた子どもたちもストレス発散でき、授業の集中力も上がったと報告があった。大学生の体力づくりにも導入され、教育学部学生が指導ボランティアとして活躍している。島根県・高知県の子ども園等で効果があったと報告を受けている。講習会に参加するだけでなく、ギガスクール構想（Eラーニング）はスマホでも

視聴できるのでぜひ、日本スポーツ協会のホームページを確認してほしい。

• 中澤委員

県教委―市町村教委―学校の連携のもと、「ACP」の導入を考えてみるのも良いかと思う。

• 小山オブザーバー

「ACP」について、自分は知っていたが、一般の方々へのコミュニケーションカードやアイスブレイキングにも利用できるので、広くアナウンスしていきたい。

• 橋委員

「ACP」は子どもたちにとっても良いものと感じた。

主運動として「ACP」を取り入れ、学校体育の中にも取り入れて行ければよいと思う。

• 早川オブザーバー

幼稚園の先生、大学の学生等にも紹介すると効果的では。

• 小出委員

埼玉県では、スポーツ少年団の指導者が既に取り組んでいる。

• 小野里委員

講習会を開催→ホームページより情報を取得し、各クラブで普及し、取組む。

• 菅谷委員

上武大学では、大学で資格が取得できる講義に出席している学生も増えているので、導入できればと思う。

• 蜂須委員

子どもの体力が落ちている。腹筋が1回もできない子どもがいるし、前回りもできない、遊びから体力づくりへ保護者を巻き込み、さらに広める活動ができればと思う。

3：学校部活動との連携について

12月21日（水）・22日（木）の県外視察について、平林座長より説明し、岐阜県は「はしまなごみスポーツクラブ」、滋賀県は「稲枝中学校」の2カ所を視察。また、小出委員より、「視察で得た情報を県の活動にフィードバックをお願いしたい。」との意見が出た。

4：ブロック研修会について

今年度初めて実施したクラブのブロック別研修会について、ここまでの開催状況を説明。

北毛地域ブロックの様子を小野里委員から、西毛地域ブロックの取組を小出委員から、中毛地域ブロックを平林委員から報告し、東毛地域ブロックは、資料より小林委員が報告した。

令和4年度第3回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議 議事要旨
(国庫補助事業 令和4年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業)

1.開催日時：令和5年1月21日(土)13時05分から14時50分

2.開催場所：群馬県庁25階251会議室

3.出席委員等

高橋 陽一・橋 憲市・菅谷 美沙都・蜂須 聖司・小野里 順子・平林 知巳・
小出 利一・石田 隆則・小林 秀光・中澤 則行・狩野 誠

欠席委員

高田 勉

【オブザーバー】

早川 亨 (群馬県スポーツ振興課係長)

梅村 健太 (群馬県スポーツ振興課主事)

小山 靖弘 (群馬県教育委員会健康体育課学校体育係指導主事)

高橋 史倫 (群馬県スポーツ協会事務局)

4.議 事

平林座長から挨拶

午前中のセミナーは、大変お疲れさまでした。引き続き、講師を務めた菅谷委員・小出委員にも参加をいただき会議を進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

県内のクラブ運営もどうあるべきかがターニングポイントとなってきています。

来年度に向けてどのような方向へもっていくかを考えていきたいと思っておりますのでご意見宜しくをお願いします。

議題 1

(1) 県外視察報告について

昨年、12月21日から22日にかけて、岐阜県羽島市と滋賀県彦根市のクラブや中学校を視察した内容について、平林座長より概要説明があった。

はしまなごみスポーツクラブは、羽島市内で中学校部活動の受け入れを行っている。地元企業の助成金や、中学生がデザインしたTシャツを販売したりして運営費の一部にあてている。また、滋賀県の彦根市立稲枝中学校では、受け入れ団体として、学校支援協議会を作り、ボランティアコーディネーターが配置されている。この組織に部活動を取り込んで支援してくれている。OBの職員等を利用、謝金は市からの補助金もあてている。

【意見交換】

・蜂須委員

羽島市役所スポーツ推進課係長の中尾さん(教員)がこの問題では力を入れていたことが印象的であった。

彦根市の中学校では、支援協議会が取り組むことにより一番取り組みやすい組織だ

と勉強になった。

- 小山オブザーバー

羽島市の場合、スポーツ部局に学校の先生が入って、兼業兼職についても理解がある。また、校長の理解があり、前向きに取り組んでいる姿が印象的であった。

視察の事例について、まとめたものを群馬県内の市町村教育委員会に情報提供をした。

- 狩野委員

人材確保、周囲の協力体制、お金の集金方法等上手く解決しているので、参考になると思った。

- 小野里委員

羽島の場合、活動自体を地元企業が協賛してくれていて、すべての種目を地域移行されているのが素晴らしかった。(できるところから1つ1つやるのではなく、一気にいったというところは素晴らしいと感じた。)

- 小出委員

羽島市の概要や学校数や生徒数などの紹介後、行政側にも推進役がいたことが大きい。

またクラブ側には人望の厚い方がおり企業への働きかけがうまくできた。

教員の負担軽減がされていることから教員の満足度100%であり、コロナの影響や指導者への問題を踏まえても、参加者の不満の回答は17%に過ぎない。人材育成もうまくいっているといっってよい。【5名の教員が兼業している】

彦根市の場合、教員のOB・OGが指導者となり、運動部も文化部もカバーしている。まだ移行していない運動部も徐々に参加していく方式を取っている。各中学校にコーディネーターがいてまとめている。この活動は進行形であり、令和3年度の実績報告にも運動・文化部の設置状況が載っている。

- 蜂須委員

群馬県としてやりやすい方法を見つけるべきだと思う。

例として、前橋には、小学校区にスポーツ推進委員が数名いるが、中学校区の場合は地区ごとに体育協会があり、地区の体育協会が協力すれば出来るのではないかと。城東地区には3名のスポーツ推進委員がいて、学校PTA協会の連携でうまくいくのではないかと。どのような組織を動かせば上手くいくかを考えることが大事。

- 橋委員

地域の活動については、小学校、中学校、公民館等で、地域学校協働本部として組織して行っている。

- 蜂須委員

学校開放を利用せずほかの施設に移っている状況がある。また、前橋市内の旧公民館の活動は上手くできていない。高崎市は、地区ごとにすべて対応が違っている。競技志向の高い子供が多い地域では、Jリーグの下部組織クラブや野球のリトルリーグなどで全国大会を目指しているなど、二極化が進んでいる。

(2) 県内ブロックの事業、実技講習会を踏まえた課題の洗出しについて

・平林座長

前橋地区には7団体あるが、今後、共通の課題の研修を進めていきたい。

部活動を行う意味：勝利主義に偏ることにより、試合に出られないことがある。

楽しんでスポーツができる環境づくり、体力強化を一番にしてはどうか？ゲームはするがトーナメントではない状態、勝利至上主義にはしない。

・小山オブザーバー

クラブの立ち上げについて、クラブマネージャーや指導者の育成に力を入れてほしい。かつてあった子供会育成会は、消滅しつつある。

・蜂須委員

前回実施の実技研修会（ACP）に参加、指導者と委員の交流の場が作れてよかった。モルックの実技では、太田市にある健康夢友クラブの高齢者が大活躍で5回の試技で50点を達成してしまったのには驚いた。各ブロックごとに楽しく実施できる研修会をしてみたいはいかがか？部活動の地域移行をチャンスに持続可能なクラブとして運営できるようにと思っている。

・小出委員

新設の地域クラブ活動の新設スポーツ庁のガイドラインで推し進めているが、スポーツ振興くじの補助対象から創設支援に対する補助金がなくなったことは政策の不一致となることをスポーツ庁へ進言して是正を促した。

また、課題になっている「人・モノ・金」についても県はどのように考えているか。

現在いるクラブアドバイザーを非常勤ではなく、常勤の形で活動させられないか。

・高橋委員

令和5年度には、アシスタントマネージャーの講習会を12月に予定。

また、県教委とも協力して中学校の部活動の地域移行に協力していきたい。

・橋委員

地域ブロック別の研修は有効だと思う。座学も実技も各クラブの内容を充実させるには必要かと考える。中間支援組織の基盤強化により組織力を上げられればと思う。

県教委としても発信はしているが、地域ごとに話題にしてもらいたい。

・菅谷委員

市町村の担当者を対象にしたクラブでの活動について理解を深めていってはいかがか。（特に地域移行の問題をより理解してもらうために）

・小出委員

人材研修会としてもアシスタントマネージャー講習会を利用して、新しい情報を仕入れてほしい。また、様々な団体から受講してほしい。地域SCコーディネーター＋アシスタントマネージャーの図式で組織をつくり、活動して欲しい。例としては、学校支援協議会（校長―スポーツ推進委員―クラブ関係者）を組織してみたいはいかがか。

残念な報告だが、今回、全国登録（仮登録）をした1015クラブの中に、クラブ指導中に暴力事件が起きたところがあった。クラブの質が問われている。

(3) 人材育成等の解決策は(2)の意見の中に含まれておりました。

令和4年度 第4回群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議議事要旨
(国庫補助事業 令和4年度地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業)

- 1.開催日時：令和5年2月7日(火)10時05分～12時00分
- 2.開催場所：NPO法人新町スポーツクラブクラブハウス(自遊空間 みちくさ)
- 3.出席委員等

高橋 陽一・橋 憲市・蜂須 聖司・小野里 順子・平林 知巳
小出 利一・小林 秀光・狩野 誠・高田 勉

欠席委員

菅谷 美沙都・中澤 則行・石田 隆則

オブザーバー

早川 亨(群馬県スポーツ振興課係長)
梅村 健太(群馬県スポーツ振興課主事)
小山 靖弘(群馬県教育委員会健康体育課学校体育係指導主事)
高橋 史倫(群馬県スポーツ協会事務局)

4.議 事

平林座長が議事の進行を行い、報告書の最終確認が行われた。

(1) 令和4年度群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議報告書について

- ・事前送付した活動報告書について、各委員から意見を述べ加筆修正箇所を確認した。本日欠席となった菅谷委員の意見は小出委員が代読した。
- ・今回の報告書の重要な項目となった「3 令和3年度の提言に対する令和4年度実績の振り返り」、「4 計画したアクションプランに対する令和4年度実績の自己評価」、「5 課題のスケジュール・アクションプラン実行スケジュール」を中心に議論した。
- ・自己評価を基にして令和5年度の重点項目を議論した。

(2) 令和5年度群馬県地域スポーツ推進団体連絡会議活動について

- ・令和5年度も国庫補助金を確保して、県スポーツ協会を中心として県スポーツ振興課・県教育委員会健康体育課の両課長に、協働体制を依頼して、了解を得た。
- ・令和5年度の活動について、小出委員から提出された私案を基に議論し、人材育成(養成)と総合型クラブの創立支援、クラブの質の向上にむけた取組を重点項目とすることを確認した。
- ・小出委員から国庫補助金の申請する際は、他の県のように上限額に捕らわれないで、必要な経費を積算して申請するよう事務局へ強く要望した。

Ⅱ 各種研修会

<西毛地区ブロック研修会>

①学校部活動の休日における地域移行に関する研修会

- 1) 期 日 令和4年9月17日(土) 10時00分～15時00分
- 2) 場 所 高崎市新町 高崎市立新町中学校体育館・新町第一小学校校庭
- 3) 参加者 総数63名(群馬県議会議員4名・高崎市市議会議員2名含む)
- 4) 概 要
10:00～ 開会行事
開会の言葉 小野里副会長
あいさつと講師紹介 平林会長

講演に先立って、過日行われた「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」について、群馬県の現状をふまえて小出副会長から情報提供を行う。

【講演1】10:20～ 講演

演題 「白川町における学校部活動の地域の受け皿として事例発表」

講師 岐阜県白川町 一般社団法人スポーツリンク白川

クラブマネジャー 渡辺 靖代

岐阜県の一般社団法人スポーツリンク白川のクラブマネジャー渡辺さんを迎え、自身が取り組んでいるスポーツリンク白川の紹介と運営方法や町との連携について、資料に基づいて発表した。

白川町の紹介後、白川中学校の部活動と、スポーツリンク白川との連携について丁寧な説明があった。4つのアイテムに分けて、部活動との連携がどのように行われているか？問題点は何か？自身がクラブマネジャーでもあり保護者として活動してきた中で「生」の声を聴かせてくれた。特に、学校・保護者会・町当局・地域指導が一丸となって生徒のために切れ目のないサポートをしていることは大変参考になるところであった。

【質疑応答】

Q：スポーツリンク白川におけるドリームシートの利用方法とは？

A：部活動とスポリン活動において、指導の食い違いが起きないように、半年ごとにチームの目標を決め、それぞれの活動での指導方法をすり合わせている。

Q：指導者に対する報酬について

A：報償費としては、保護者会から年間2～3万円(部によって金額は異なる)大会や練習試合時の弁当等は指導者と話し合って支給。

新規資格取得の場合は上限 15,000 円を支給。資格更新は対象外。

Q：中学において廃部になったクラブをスポーツリンク白川で活動できるようにして活躍したと聞いたが、どのような大会か？

A：県のソフトボール連盟やバレーボール協会主催の大会で上位入賞をしたことがあった。



①「講演」受講風景

【講演2】11時05分～

行政支援と学校部活動指導者育成に関する研修会

演題 「岐阜県における総合型地域スポーツクラブへの行政支援と学校部活動指導員研修会についての事例発表」

講師 岐阜県スポーツ協会 クラブアドバイザー 藤堂 綾子

岐阜県として岐阜県スポーツ協会と一緒に、地域部活動指導者育成研修事業を行っていることをメインに、岐阜県の現状について詳しく説明していただいた。

特筆されるのは、広域スポーツセンター事業の一環で「アシスタントマネジャーの養成講習会」を無償で行っていること。

今年度からアシスタントマネジャー養成講習会の開催案内を競技団体、スポーツ少年団関係者にも周知して参加者を大幅に増加させた。

アシスタントマネジャー等の公認資格を取得する際の講習費、旅費を補助して人材育成を支えていること、学校部活動指導者研修会をいち早く取り組んだこと、などの内容を紹介してくれた。今後、有資格者を1,800名まで育成する（今年度400名が取得予定）予定。各機関との調整方法等についてもわかりやすくご説明いただいた。



②「講演」受講風景

【実技研修会】

モルック実技研修会

- 1) 期 日 令和4年9月17日(土) 13時30分～15時00分
- 2) 場 所 高崎市新町 高崎市立新町第一小学校校庭
- 3) 参加者 総数63名(群馬県議会議員4名・高崎市市議会議員2名含む)
- 4) 概 要

13:30～実技研修会

講師 岐阜県白川町 一般社団法人スポーツリンク白川

クラブマネジャー 渡辺 靖代

「モルック」の歴史とルールについて簡単にお話いただき、実技に入る。2班体制に分かれる。(アダルトチームとヤングチーム)

ヤングチームには、渡辺講師から「モルック」の基本ルールとゲームの方法について講習を受けた。

経験者のアダルトチームでは、すぐにチーム編成を行い3チーム対抗の団体戦を行った。

実際にゲームを行いながら、説明を受け質疑応答しながら、ゲームを楽しんだ。

「全体の閉会行事」では、謝辞として小出副会長があいさつを行い、渡辺、藤堂両講師へ参加者から感謝を込めて大きな拍手が送られた。



③「実技」モルックゲーム風景

2022年(令和4年) 9月26日(月曜日) (日刊)

上毛新聞

9月26日

月曜日 先負

部活動と地域が連携する岐阜県の事例を学ぶ参加者

(大森未穂 撮影)

県総合型地域スポーツクラブ連絡協

地域移行 先進例学ぶ

情報収集へ研修会

公立中学校での休日の部活動を地域に移行する動きが本格化するの事前に、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会(平林智巳会長)は17日、高崎新町中で研修会を開いた。学校との連携や指導員の研修などに取り組み団体のある岐阜県から講師を招き、クラブや行政などの関係者約50人が地域移行に向けた先進事例を学んだ。

同県白川町の一般社団法人スポーツリンク白川の渡辺靖代クラブマネージャーと、同県スポーツ協会の勝堂綾子クラブアドバイザーの2人が講師を務めた。

渡辺さんは町内の中学校と20年間連携を続けられた要因として①活動規約を定め、それに基づき関係者が動くこと②地域指導者の任期は1年で、毎年委嘱状を発行すること③チームの目標や指導方針をまとめた「ドリームシート」を作ること④活動計画書を作ること―の四つと説明した。

勝堂さんは県と協会が連携して取り組む地域のクラブへの支援事業としてアドバイザーが巡回したり、本年度から新たに部活動の地域指導員を育成する研修を開くことなどを紹介した。

同協議会は、国の地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業の一環として研修会を開いた。平林会長は「来年度から地域移行が始まるが情報が少なく、現場とすると何をしたらいいかわからない状況。研修会で理解を深め、一歩でも前進していきたい」とあいさつした。

令和4年9月26日(月) 上毛新聞掲載

<総合型地域スポーツクラブ実技研修会 ACP 講義・実技研修会>

1) 期 日 令和4年12月11日(日) 13時00分～16時50分

2) 場 所 高崎市新町 高崎市立新町中学校体育館

3) 参加者 31名

4) 概 要

13:00～ 開会のことば

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長 小野里 順子

13:05～ あいさつ

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 平林 知巳

13:10～ 講師紹介

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長 小野里 順子

13:10～14:40 講義

テーマ 『スポーツの楽しさから子供たちの体力向上』

講師 心理カウンセラー

公益財団法人日本スポーツ協会 ACP 普及・啓発プロジェクト班員

アイ・プラス株式会社 代表取締役 吉田 繁敬

14:40～16:40 実技

『ACP(アクティブチャイルドプログラム)実技研修会』

16:40～16:45 質疑応答

16:45～ 謝辞並びに閉式のことば

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長 小出 利一

講義については、吉田講師から ACP 講習会用の資料を基にお話しいただいた。また、実技についても約2時間、参加者と一緒に体を動かし、きめ細かい指導をいただいた。ACP の重要性、多世代に対しても汎用性のある活動であることを改めて学んだ。



講義風景



実技風景

<フォローアップセミナー>

1) 期 日 令和5年1月21日(土) 10時00分~12時30分

2) 場 所 群馬県庁28階281会議室

3) 参加者 33名

4) 概 要

10:00~ 開会のことば

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長 小野里 順子

10:05~ あいさつ

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 平林 知巳

10:10~講師紹介

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長 小野里 順子

10:10~12:15 講義

セミナー1『令和の時代 持続可能な総合型地域スポーツクラブへ』

講師 上武大学スポーツ健康マネジメント学科

講師 菅谷 美沙都

セミナー2『学校部活動の休日地域部活動移行の実践例』

講師 NPO 法人新町スポーツクラブ 理事長 小出 利一

12:15~12:25 質疑応答

12:25~ 謝辞並びに閉会のことば

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 平林 知巳

菅谷講師の講演では、総合型地域スポーツクラブについて基礎から学ぶ機会となり、改めてスポーツクラブとは地域コミュニティであることを再認識して、今後中学校の部活動の地域移行に際して、中学生の活動の受け皿として地域の人達の協力を得て進めるためにも良い講演となった。

小出講師からは、既に中学生を地域で受入れている経験から「学校か地域かではなく、学校と地域が一緒になって進めるべき」と示唆があった。



フォローアップセミナー受講風景



菅谷 美沙都 講師



小出 利一 講師

Ⅱ 先進地視察

<県内視察>（北毛地区ブロック研修会）

1. みなかみ町

1) 日 時 令和4年10月25日（火） 午後7時00分～午後8時45分

2) 会 場 みなかみ町社会体育館、会議室

3) 対応者 MINAKAMI TOWN スポーツクラブ” 代表 大塚 俊 氏

4) 出席委員

高橋 陽一・橋 憲市・蜂須 聖司・小野里 順子・平林 知巳・

小出 利一・中澤 則行・狩野 誠・高田 勉・小林 秀光

欠席委員

菅谷 美沙都・石田 隆則

【オブザーバー】

早川 亨（群馬県スポーツ振興課係長）

小山 靖弘（群馬県教育委員会健康体育課指導主事）

高橋 史倫（群馬県スポーツ協会事務局）

5) 視察概要

- ・進行役：群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
副会長 小野里 順子

- ・はじめに

群馬県総合型地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業メンバー自己紹介

総合型地域スポーツクラブ北毛ブロックの各代表者 自己紹介

次第

○開会のことば

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 常任委員 星 勝実

○あいさつ

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 平林 知巳

○講師紹介

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 常任委員 藤井 吉治

○活動視察

会議室から、体育館へ移動し、クラブの活動の様子を視察した。

当日は、小学生・中学生の会員がバスケットボールに集まり、小学生のクラス（10名程）には幼児も参加していた。

3名のコーチがそれぞれのグループにつき、ウォーミングアップから大変丁寧な指導を行っていた。

専門的な指導を受け、充実した表情の子供たちと、大きな声を出し、熱心に指

導するスタッフが印象的だった。同時にほぼ全員が保護者の送迎による参加とのことで、家庭の理解の大きさも痛感した。

○講演

講師 群馬県総合型地域スポーツクラブ

MINAKAMITOWNスポーツクラブ 代表 大塚 俊

「プロバスケットボールチームの運営と地域スポーツへのかかわり方」

内容

みなかみ町には、平成の大合併の前にNPO法人みなかみスポーツクラブ（旧月夜野クラブ）があったが、さまざまな事情で活動を停止していた。そこで、バスケットボールを中心種目に、大塚氏が立ち上げたのが「MINAKAMITOWNスポーツクラブ」である。3×3のプロチームの監督兼任選手でもある大塚氏が、地域の活性化を目指して元気な「みなかみ町」を作りたいと、自分の育った街を基盤に世界へ羽ばたこうという考えをもち、仲間を集め、活動を開始した。プロバスケットボールチームとして活躍する一方、総合型クラブとしてバスケットボールやチアダンス、ストレッチ教室などを企画し活動を始めた。

スタート当初は会員も集まらず苦労したようであったが、プロバスケットボールチームの活動が認知されると同時に会員の増加もあったという。

また県内外を問わず、教室の開催や女子の3×3のプロチームの立ちあげなど活動を広げている。

講演の中で、特に「スポーツをビジネスに」という考えのもと、お金を払っていただくと同時に発生する責任に対して全力を尽くす。月謝を頂いてスポーツを指導するのはいかなものかという風潮があるが、プロとしてやってきた種目において自信と責任をもって指導に当たることが、プロ選手のセカンドキャリアにもつながるし、会員は高度なテクニックまで教えてもらえるというメリットがあると思う。クラブとして実施種目の拡大や募集する会員の年齢層の幅を広げる工夫を今後も続けていくことを考えている。みなかみ町の人口減少に歯止めをかけて、さらに子育てのしやすい住みやすい街づくりを目指して、みなかみ町に魅力を感じて移住してくる人たちを迎えるためにも、MINAKAMITOWN スポーツクラブが、町の元気の源になるよう頑張っていきたい。

○質疑応答と意見交換

Q：プロチームの経営については、上手くいっているのか？

A：リーグが選手を貸し出して運営しているのでクラブとしては金銭的心配ない。

Q：3×3の大会はどのような会場で行っているか？

A：ショッピングモールなどでも、特設会場を作って行っている。（観客数1万人の会場もある。）

Q：体育館の使用料は、どうなっているか？

A：通常の活動については町当局から減免措置を講じていただいているので体育館使用料は払っていない。ただし、大会、イベント等実施時は使用料を支払う。

クラブ会員からは月額5,000円を徴収しているが、その額で講師謝金は賅える。

Q：中学校部活動の受け皿として、バスケットボール以外の依頼については。

A：まずは地元で団体があれば、そこで受けていただくのが第一と考える。難しい場合は、野球やサッカーの受入依頼もクラブとして指導者を配置し、受け入れを考えている。

Q：町当局からクラブに対して要求されることは何か。

A：町のスポーツフェスティバルに呼ばれるようになり、認知度も上がったため野球やサッカーについても、指導者を探して受け入れを考えている。

Q：部活動の受け皿として、クラブが準備していることは。

A：みなかみ中（旧月夜野中・水上中・藤原中・新治中の統合により）は、広範囲バス通学という条件が付くが、地元の生徒たちを中心に受け入れは可能と考えていて、現在ない種目については指導者を探しても引き受ける覚悟がある。

○謝辞および全体のまとめ

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長 小出 利一

○閉式のことば

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長 小野里 順子



研修及び連絡会議



クラブの練習風景

<県外視察>

1. 岐阜県羽島市

- 1) 日 時 令和4年12月21日(水) 午後1時45分～午後3時30分
- 2) 会 場 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内6丁目160(羽島市柔剣道場1階)
- 3) 対応者 はしまなごみスポーツクラブ 理事長 小森 博昭
羽島市役所 市民協働部スポーツ推進課スポーツ推進係長 中尾 聡
公益財団法人岐阜県スポーツ協会 スポーツ推進課生涯スポーツ係
クラブアドバイザー 藤堂 綾子

4) 参加委員

蜂須 聖司・狩野 誠・平林 知巳・小野里 順子・小出 利一

【オブザーバー】

小山 靖弘(群馬県教育委員会健康体育課学校体育係指導主事)
木村 亮輔(群馬県障害者スポーツ協会主任)
高橋 史倫(群馬県スポーツ協会事務局)

5) 視察概要

○羽島市紹介

羽島市：人口 67,541 人、面積は 53.66 km² 人口密度は 1258.7 人/km²

○竹鼻中学校の部活動概要

・クラブ化以前の部活動

平日は2日、多くて3日、休日は土曜日のみ。冬期期間の平日部活動はほとんど活動なし。日曜日は育成会(保護者会)が指導していた。育成会では1つの部活動につき2名以上の保護者が携わることとなっていた。保護者の負担が大きい。

○羽島市の総合型地域スポーツクラブ

3つのスポーツクラブがある。はしまなごみスポーツクラブ464名(250名が中学生)

○地域移行への経緯

「もっとやりたい生徒へのニーズに応えられない。熱心な教員が異動した場合、競技力の維持ができない。育成会(保護者)の負担が大きい。」等の理由で育成会から要望があり、学校が動いた。はしまなごみスポーツクラブの小森理事長は陸上競技の社会人指導者として育成会に関わっていた経験を持つ。

○クラブと行政との連携について

意見交換会の実施。学校施設の全面減免。

○クラブ活動について

全運動部12部のクラブ化。活動回数1ヶ月8回以内。保護者当番制は各部の実情に応じて決める。指導者については面接を行って決定している。

- 1 伸ばす(さらに技術・仲間づくり)
- 2 挑戦(部活動と違う種目ができる・色々な種目ができる)
- 3 学び(趣味ややりたいことができる・勉強にさらに打ち込める)

《長所》

- ・技能向上を目指せる環境が作れる。
- ・選択肢が増え、やりたいことに挑戦できる。
- ・自分の時間が増え、やりたいこと・勉強に集中できる。

《短所》

- ・練習量が増え、休みが少なくなることがある。
- ・活動によって、目標や運営方法が異なる。
- ・負担するお金が増えることがある。

《心配な点》

- ・部活動とクラブで指導者が代わる。

→今まで以上に連携を密にする。連携についてはハンドブックがあり、細かいところまで引き継ぎを行うこととなっている。

- ・選手選考はどうなるのか。

→部活動（中体連）は顧問が決める。クラブはクラブの指導者が決める。

- ・顧問はクラブ指導者と兼業できるのか。

→兼業できる。（運動部）

《今後の懸念点》

- ・指導者謝金は1時間で1,000円。自分たちに合った内規を定める。このような流れが一般的になったとき、他地域からの引き抜きがある可能性がある。謝金の基準を設ける必要がある。

○昨年度の振り返り

- ・クラブ加入率は85%。40名は未加入。（20名は野球のシニアクラブやサッカークラブの練習に参加。その他20名は平日のみの活動。）
- ・クラブ指導者29名（内訳：クラブ指導者24名、教員（兼業兼職）5名）
- ・アンケート

【生徒に対してのアンケート結果】

- ①クラブ活動に満足しているか。→83%が満足しているという回答。
不満な生徒の理由は「コロナで十分な練習ができない、指導者の交代」等。
- ②仲間との絆を深めることはできたか。→96%が絆を深めることはできたという回答。
- ③部活の顧問からクラブ指導者に代わって困ったことはあるか。→92%が困ったことはないという回答。

【保護者に対してのアンケート結果】

- ①保護者から見て子どもは満足しているか。→74%が満足しているという回答。
- ②保護者負担についてどう思うか。→62%が負担はないとの回答。
指導者はハード面に対して29%が不満を持っている。

【顧問に対してのアンケート結果】

- ①クラブへの移行について満足しているか。→100%が満足していると回

答。

②負担は減ったと感じているか。→85%が減ったと回答。

③クラブ指導者との連携についてどう感じているか。→90%が良好と回答。

不満はクラブ指導者と生徒の関係が悪化した際に呼ばれること。

○指導者研修会について

- ・資質向上のため、指導者研修会を行っている。
- ・民間クラブ等と連携して指導者の確保を行っている。
- ・自閉症等の発達障害の生徒の受入に備え、多様性に対応するための研修もしている。

○行政の今後の展望について

- ・令和7年度までに地域移行する。地域移行していない中学校については「今後の在り方検討会」を行っている。
- ・文化部についても地域移行する。
- ・平日の部活動について検討する。冬期でも3日間実施する。
- ・教員の労働時間の問題ではなく、スポーツ振興として考えている。スポーツクラブを強化して選択肢を増やす。

○質疑応答

(質問：小出委員)

- ・はしまなごみスポーツクラブは任意団体だが、法人化の計画はあるか。(賠償責任等が生じた場合等を考えた場合)

(回答：小森理事長)

- ・NPO 法人等の法人化の計画はある。今後人口が減っていくので、羽島市の3つのクラブを1つにするとよいと感じている。

(回答：中尾係長)

- ・各クラブで議論することだが、法人格を急いで取る必要はないと思う。取得すると行政と契約ができるようになるため一つのメリットである。

(質問：平林委員)

- ・多くの協賛企業があるので驚いた。どのようにして集めているのか。

(回答：小森理事長)

- ・ホームページの1マス10,000円、半マス5,000円となっている。地元の企業に支えられている。Tシャツのデザインを中学生が作り、着てもらっている。広告になっている。

(回答：中尾係長)

- ・協賛企業は小森理事長の人望によるところがある。後継者問題が課題。

(回答：小森理事長)

- ・総合型地域スポーツクラブに協賛する文化が根付いてきた。地域に支えてもらってスポーツ環境が整う。

(質問：小出委員)

- ・竹鼻中学校は運動部全競技地域移行しているか。

(回答：中尾係長)

- 全競技移行にこだわっている。全競技地域移行することで公平性がある。

(回答：小森理事長)

- やるなら全競技。現在自分たちでスポーツ環境を求める機運が高まっている。平日移行にもつながっていく。

(質問：小出委員)

- はしまなごみスポーツクラブは小学生、高校生の受け入れはないのか。

(回答：小森理事長)

- 現在は中学生。小学生はスポーツ少年団。高校生は部活動。

(回答：中尾係長)

- 今後はスポーツ少年団＋中学生期間（9年間）指導するスポーツクラブが理想と考えている。

(質問：小出委員)

- 多様性に対応するための研修も行っているとの話があったが、実際に発達障害等のある生徒と一緒に活動している事例はあるのか。

(回答：中尾係長)

- 個に対する指導を行っている。指導者からの要望でそのような研修を開始した。そのような面でも指導者の資質向上を行っていく。実際に手帳を持っているかは確認していない。

(回答：小森理事長)

- パラスポーツは昨年度から取り組み始めた。初級障がい者スポーツ指導員の資格を3名取得した。普通学校の特別学級にも対応していく。

(質問：平林委員)

- 健康体操は何名会員がいるのか。

(回答：小森理事長)

- 健康体操は360名。ヨガは15名。バドミントンは15名。陸上競技教室は現在行っていない。

(質問：小出委員)

- スポーツ少年団は1つだけか。

(回答：中尾係長)

- スポーツ少年団の改革も必要。団員が減少している。歯止めをかける必要がある。

(質問：蜂須委員)

- 生活保護等で会費が払えない家庭がある場合はどのような対応か。

(回答：中尾係長)

- 所管が違うので何とも言えない。



はしまなごみスポーツクラブ事務局



会議風景

2. 滋賀県彦根市

- 1) 日 時 令和4年12月22日（木） 午前9時45分～午前11時45分
- 2) 会 場 滋賀県彦根市田原町202（滋賀県彦根市立稲枝中学校）
- 3) 対応者 滋賀県彦根市立稲枝中学校 校長 北村 功
滋賀県彦根市立稲枝中学校 教頭 西山 久美子
一般社団法人彦根市スポーツ協会 専務理事 木村 輝男

4) 参加委員

蜂須 聖司・狩野 誠・平林 知巳・小出 利一
オブザーバー

小山 靖弘（群馬県教育委員会健康体育課学校体育係指導主事）

木村 亮輔（群馬県障害者スポーツ協会主任）

高橋 史倫（群馬県スポーツ協会事務局）

5) 視察概要

○北村校長説明

- ・1学年は80人から100人程度で人数は少ない。陸上競技部等がなくなった。部活動の顧問（専門）がいなく存続が苦しくなっている。運動に対して熱心な地区なため、部活動を何とかしたい。部活動をボランティアで手伝いたいという素地があった。
- ・令和3年からモデル校を受託した。コロナの影響もあり、2学期からスタートした。指導者はいるが、運営主体がない状態だったが、現在の木村専務理事（学校支援協議会）にお願いをして、スタートを切ることができた。木村専務理事は以前、この学校の教員であったことからお引き受けいただいた。現場の教員は最初のころは少し不安があったが、だんだん慣れてくるとクラブに任せている。
- ・令和5年度から野球部が地域移行してすべての運動部が地域移行することになる。
- ・受益者負担は1,000円。

○木村専務理事説明

- 土日に部活動の延長として、地域部活動を行っている。以前のような体制だと部活動が成り立たない。部活動の延長なので試験前は休み。部活動に入っていて、地域部活動に入っていない生徒もいる。もっとやりたい生徒は部活動ではなく、クラブチームに入っている。
- 前々任の校長から顧問がいなくなり部活動がなくなる。助けてほしいという話を受け、引き受けた。地域の指導者が入っているため、モデル校になっている。
- 外部指導者謝金は1回1,200円。受益者負担は月額1,000円。
- 平日も指導したいということで、無償で指導している部活動もある。
- 指導者は60歳以上。
- 同窓会、PTAから補助が出ている。ほとんどが指導者謝金。保険は地域のスポーツ傷害保険。部活動と地域部活動で保険を分けている。
- 昨年度の課題は顧問と外部指導者の教え方が違うことだった。今年度は顧問と外部指導者で密に連絡を取って行っている。
- 課題は指導者の高齢化。退職された方をお願いする形になっている。

○質疑応答

(質問：小出委員)

- 会費の徴収方法はどのように行っているか。

(回答：北村校長)

- 学校窓口で徴収している。振り込みも考えたが、手数料が大きいため、現金で顧問を通して、徴収している。会費は木村専務理事が管理している。
- 同窓会とPTAから補助をもらっている。同窓会については稲枝中出身者から500円徴収している(6月)。今まで校費で賄えないところに使っていたが、部活動で使いたいとお願いした。現在は20万円の補助。PTAからの補助については全生徒に還元できないというところがあるが、部活動で頑張った生徒に補助するというところで理解をいただいている。

(年2,000円/1人)

(質問：平林委員)

- 現在は国の補助金が出ているが、将来的になくなると思われる。その時に向けて、どのように考えているか。

(回答：木村専務理事)

- 切り離した場合、受益者負担しかない。

(回答：北村校長)

- 教員については、今でも見に来ている教員もいれば、任せている教員もいる状態。だんだんと地域に移行している。国の補助がなくなって、利益を求めて行っていくとなると今の体制では難しい。教員はやはり土日はやりたくない。やりたい教員は自分で兼職兼業として部活動を見ている教員がいる(バスケットボール部男子)。

(質問：小山指導主事)

- 群馬県では、学校の中に部活動を残したい、また、外の受け皿が少ない等の課題がある。話の中で出てきた学校支援協議会について伺いたい。群馬県でも参考にしたい。

(回答：北村校長)

- 退職された教員が農園ボランティアや読み聞かせのボランティア等を担う主任コーディネーターとして中学校内にいる。その方々は地域との連携を図る業務の為、地域部活動の指導は木村専務理事が行っている。
- また、木村専務理事は学校のことをよくわかっていて、鍵の管理等もしていただいている。
- 文化部についても地域移行ができないかという話もあるが、吹奏楽部等ハード面で壁が高い。

(質問：木村主任)

- 特別支援学級の生徒で部活動や地域活動に参加している生徒はいるか。

(回答：北村校長)

- 参加している生徒はいる。過去に弱視の生徒で卓球部に所属していて3年間やり遂げた生徒がいる。

(質問：小出委員)

- コミュニティスクールについては稲枝中学校で考えているか。

(回答：西山教頭)

- コミュニティスクールと部活動が関係しているというわけではない。



稲枝中学校



会議風景

7 登録審査委員会活動報告

群馬県総合型地域スポーツクラブ 登録審査委員会

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 審査委員会 審査委員 名簿			
No.	役職	氏名	所属・役職
1	委員	高橋 陽一	群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課 課長
2	委員	菅谷 美沙都	上武大学ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科 講師
3	委員長	蜂須 聖司	群馬県スポーツ推進委員協議会 会長
4	委員	小野里 順子	群馬県スポーツ協会 理事
5	委員	平林 知巳	群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長
6	委員	小出 利一	群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 副会長
7	委員	高田 勉	群馬県スポーツ協会 事務局長

令和4年度登録審査委員会開催次第

開催日：令和4年8月19日（金）14時から

場所：群馬県庁 昭和庁舎 11 会議室

- 挨拶 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 会長 平林 知巳
- 委員長選出
- 報告事項
- 自己紹介
- 審査手順説明
- 登録審査
- その他
- 事務連絡

群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
第1回 登録審査委員会 議事録

1. 開催日：2022年8月19日(金)14時から16時20分
2. 開催場所：群馬県庁昭和庁舎11会議室
3. 出席者：高橋 陽一・菅谷 美沙都・蜂須 聖司・小野里 順子・平林 知巳
小出 利一・高田 勉

【オブザーバー】

- 早川 亨（群馬県スポーツ振興課係長）
梅村 健太（群馬県スポーツ振興課主事）
高橋 史倫（群馬県スポーツ協会生涯スポーツ課長）
小林 秀光（群馬県スポーツ協会クラブアドバイザー）

4.挨拶

平林知巳群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長から、いよいよ始まった登録・認証制度の初めての審査委員会となる。審議をよろしく申し上げます、とあいさつがあった。

5.委員長の選任

委員長については、事務局案として蜂須委員が推挙され承認した。

6.報告事項

小林アドバイザーから配布資料について説明を行った。

7.自己紹介

名簿に沿って自己紹介を行った。

8.手順説明

審査手順について、小林アドバイザーから説明を行った。

9. 審査並びに審査結果

本委員会として登録名簿にあるクラブについて、関係書類一式を審査したところ全て適性と認めため19クラブ全てを承認する結論となった。

10.その他

小出委員から次の2点について説明した。

- ① 令和4年度の仮登録期間が令和5年度末までに変更になったために会費納入方法について、令和4年度分の5,000円と令和5年11月から令和6年3月末までの2,000円を一緒に支払っても分けて支払っても良い事になった旨の説明をした。
- ② 11月12日・13日で予定されている関東ブロッククラブネットワークアクションについて、11月13日がつくばマラソンと重なったため宿泊施設が確保できないことが判明した。そのため、11月12日1日開催になることが報告された。

11.事務連絡

特になし

12.閉会

蜂須委員長から委員会の円滑な運営に協力いただき感謝していると挨拶があり
閉会した。

審査の結果 下記の 19 クラブを全国登録することを承認した。

令和4年度 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 登録申請クラブ 一覧														
No.	種目数	クラブ名	代表者名	担当者名	会員数・活動開始	提出書類								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	15	NPO法人新町スポーツクラブ	小出 利一	小出 利一	297 2000~	○	○	○	○	○	○	○	○	1695
2	25	おわたスポーツ学校	松本 和明	阿久津直幸	1259 2002~	○	○	○	○	○	○	○	○	184
3	6	うすねニューススポーツクラブ	小野里 順子	小野里 順子	181 2003~	○	○	○	○	○	○	○	○	1535
4	12	NPO法人宮城スポーツクラブ	中澤 清	梅澤 光枝	152 2007~	○	○	○	○	○	○	○	○	1667
5	6	NPO法人群犬クラブ	柳川 益美	柳川 益美	153 2007~	○	○	○	○	○	○	○	○	1968
6	9	NPO法人渋川いきいき健康スポーツクラブ	小松 秀司	小松 秀司	63 2009~	○	○	○	○	○	○	○	○	1012
7	9	NPO法人伊勢崎西部スポーツクラブ	平林 知巳	平林 知巳	225 2009~	○	○	○	○	○	○	○	○	1669
8	4	一般社団法人しょうわスポーツクラブ	中山 照夫	藤井 吉治	108 2011~	○	○	○	○	○	○	○	○	1815
9	9	NPO法人はるなスポーツクラブ	藤井 輝夫	藤井 直樹	123 2012~	○	○	○	○	○	○	○	○	1976
10	2	NPO法人ザズバススポーツクラブ	鈴木健太郎	鈴木健太郎	325 2012~	○	○	○	○	○	○	○	○	996
11	3	一般社団法人Fohlenスポーツアカデミー	星野 佑介	須田 篤史	171 2013~	○	○	○	○	○	○	○	○	1938
12	5	NPO法人川場村スポーツクラブ	関 真一	星 勝実	210 2013~	○	○	○	○	○	○	○	○	1496
13	6	鐘林ジョイススポーツクラブ	井出 康弘	横田 万重子	121 2016~	○	○	○	○	○	○	○	○	1707
14	3	NPO法人 Alla vita sport	高島 大輔	高島 大輔	156 2018~	○	○	○	○	○	○	○	○	1900
15	3	MINAKAMI TOWNスポーツクラブ	大塚 俊	日下 謙人	100 2021~	○	○	○	○	○	○	○	○	1943
16	3	一般社団法人Inchiesta sports dub	阿久沢康徳	二宮 浩	72 2022~	○	○	○	○	○	○	○	○	1899
17	3	一般社団法人群馬国際スポーツ協会	菊田 博之	菊田 博之	53 2022~	○	○	○	○	○	○	○	○	1792
18	3	一般社団法人 Owenスポーツクラブ	鈴木 義昭	本多由梨奈	21 2022~	○	○	○	○	○	○	○	○	1715
19	3	一般社団法人総合型地域スポーツクラブ選苗	津久井 功	倉尾 正典	38 2022~	○	○	○	○	○	○	○	○	1875
● 申請書類①~⑨を提出						● (1)~(7)までの個別基準ごとに定められた「必ず満たすべき運用ルール」								
①	登録基準確認用紙													
②	基礎情報書類(総合型クラブ概要等)					(1) 多種目(複数種目)のスポーツ活動を実施している。								
③	規約・会則・定款等					(2) 多世代(複数世代)を対象としている。								
④	役員名簿					(3) 有資格のスポーツ指導員を配置している。								
⑤	総合型クラブ内で承認を得た当該年度事業計画・予算					(4) 安全管理体制を整備している。								
⑥	総合型クラブ内で承認を得た前年度事業報告・決算					(5) 地域住民が主観的に運営している。								
⑦	評価指標を用いた自クラブの自己点検・評価の結果					(6) 組織の規約等が整備されている。								
⑧	上記⑤及び⑥を議決した際の議事録					(7) 事業計画・報告・予算・決算について総会等で議決されている。								
⑨	「スポーツ団体ガバナンスコード<一般スポーツ団体向け>自己説明・公表確認書」					・詳細は群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会「登録基準細則」を参照								

編集後記

昨年度に引き続いた事業であり、今回は事務局において主体的に一年間遂行しようと胆に銘じスタートした本事業でしたが、いざふたを開けてみると、会議の運営、課題ごとの研修会等の運営など、頓挫しかかることも多々あり、関係各位のご理解、ご協力により、なんとか報告書の完成に至りました。

県内30余の総合型地域スポーツクラブにおけるクラブの運営サイドにおいても「はたして登録認証が必要なのか？それによるメリットは？」とか、「運動部活動の地域移行における受け皿として何をやったらいいのか？」など、様々な課題が山積していることも直視しなければならない現実でした。

県スポーツ協会としましては、今後とも、従前にまして連絡協議会や県当局と連携し、諸課題の解決に向けて誠実に取り組みたい所存です。

未筆ではありますが、事業展開において多大なるご尽力をいただいた、連絡会議のメンバー諸氏、県当局、とりわけ、様々な情報提供並びに講習会等における講師選定、視察箇所等への円滑な連絡等お世話になった小出利一氏の方なくしては本事業の遂行はなかったと感じるところです。

関係各位に改めて感謝申し上げますとともに、今後ともご理解ご支援をお願い申し上げます。報告書のまとめといたします。

公益財団法人群馬県スポーツ協会 事務局

健康寿命の延伸 県民運動を推進しています！

人生100年時代を見据え、活力ある健康長寿社会を実現するためには、健康寿命の延伸が重要です。

群馬県では、全ての県民が生涯にわたり、元気にいきいきと幸せな生活を送ることができるよう、県民の皆様に取り組んでほしい健康づくりの実践事項を「ぐんま元気（GENKI）の5か条」として推進しています。

ぐんま元気（GENKI）の5か条

第1条 G げんきに動いて ぐっすり睡眠（運動・休養）

第2条 E えんぶん（塩分）ひかえて 食事はバランスよく（食生活）

第3条 N なかま（仲間）をつくって 健康づくり（社会参加・健（検）診）

第4条 K きんえん（禁煙）めざして お酒は適度に（喫煙・飲酒）

第5条 I いいは（歯）を保って いつも笑顔（歯と口・こころの健康）

発行日：令和5年2月吉日

発行責任者：公益財団法人群馬県スポーツ協会